

開催日時	平成 27 年 10 月 28 日（水） 18：00～19：30
開催場所	コア鳥取
参加人数	23 人
出席議員	<p>畑中優周 副議長</p> <p>大越拓也 議員（議会広報特別委員：司会）</p> <p>松橋尚文 議員（議会運営委員会委員長、経済建設常任委員会委員、都心部市街地整備特別委員会委員）</p> <p>続木敏博 議員（総務文教常任委員会委員、石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員長）</p> <p>梅津則行 議員（民生福祉常任委員会委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：北大通がゴーストタウン化しており、観光客にメイン通りはどこだと聞かれても、答えられない。観光客が散策できるようにアイデアを出せないか。</p> <p>またMOOは空きが多いが、函館の煉瓦館ではすり身を作ったりしている。小樽の運河もさびれていたものが立派になって、全国に知られるようになった。人がいないと嘆いてばかりいないでこうしたことを真似できないのか。</p> <p>松橋：北大通の活性化については、何年も前から議会でも議論になっている。今、民間事業者による再開発の動き、図書館の移設の動きなどもあり、この6月議会から新しく特別委員会を設置して、より具体的に議論を深めていこうとしている。</p> <p>昔は北大通に人が多かったが、買い物が居住地域で済まされるようになってから、北大通周辺で買い物をする人が減ってきたようだ。今、釧路市はコンパクトシティという居住地域ごとのマチづくりを進めながら、交流人口を増やすという施策を進めている最中である。ご指摘の点もしっかり議論させていただきたい。</p> <p>問：北大通のデパート跡が本当に汚い。</p> <p>松橋：北大通のデパート跡の一部は再開発が予定されている。また壁がはがれている建物もあるが、権利者の課題などもあり、なかなか現状では市として建物に手を付けられない。</p>

国も、空き家・空きビル対策の法律を制定したので、市としても施策を講じていかなければならないと議会で議論している最中である。

問：市立病院の増改築について、当初は北側の駐車場にCT棟を増築し、他は改築すると聞いていたが、今は新築だという。今の駐車場の場所に全て新築するのか。既存の建物も使うのか。

梅津：新聞報道では新築と書かれたが、今の建物をすべて壊して建てるのではなく、一部を壊して対応するもの。機能としては新たに充実させることは間違いない。医療機能を充実させるため、一部を壊して駐車場を作るなどする。ただしベッド数については100床程度減ることになる、という提案をされて、先日基本設計・実施設計予算が議決された。病院として一回り大きくなるが、新聞で「新築」と書いてあったので、誤解されている。

問：市立病院は現在の場所でないとダメか。報道を見て新築と思ったので、それならもっといい場所があるのではないかと考えていた。

梅津：議会の議論としてはその点は出なかった。全く新しいなら検討されるだろうが、そうなればもっと多額の費用が必要となる。国から地域医療計画という指針が示されているので、医療機能を充実していくために今の中で改築して対応していこうというものだ。

問：市立病院が現在の場所で新しくなっていくということはコンパクトシティの考え方とは異なるのではないか。北大通に移転するなどした方がよい。また古い建物には罰金を払ってもらうなどのしくみがあってもよいのではないか。そのようにして都市の建物をスイッチしていくのがコンパクトシティの考え方ではないか。

梅津：民生福祉常任委員会の中では、コンパクトシティに関連しての議論はなかった。国が示している地域医療計画の中で2025年に向けて地域包括ケアというシステムを作る時に、市立病院

は釧路・根室管内で一番の病院としての機能を考えなさいと示されているので、そのためにどういう医療機能を持つか、そこが議論の焦点だった。

続木：コンパクトシティの考えの中で、病院の位置付けはなかった。現在市には総合病院が3つあるが、人口比から見ると恵まれており、津波を含め災害のことを考慮すると、同じような場所でない方がよい。議会として議論の中にはなかったが、そう考える。

問：火力発電所について、昭和30年代ぐらいに敷地を確保していなかったか。また、この先何年かして石炭がなくなったら輸入炭を使うのか。

火発もさることながら、若者をもっと雇用できる企業を誘致してほしい。

続木：昭和50年代に西港の付近に用地を確保し、準備していたが、その後、立ち消えてしまった。

火力発電所については、現在、釧路コールマイン(KCM)では、毎年50万トンを掘っているが、輸送費をかけて兵庫県の火発まで運んでいる。そうした中で、すぐ隣に火発をつくると手を挙げてくれる企業が出てきて、市も北海道もこれを進めたいと考えているし、建設に反対している議員はいない。現在、環境アセスを行っており、平成31年から動く予定でいる。これによってKCMは安定的な運営が可能となる。

火力発電所は機械で動くため、火発自体は40人程度の雇用でしかないが、KCMとしては400人ぐらい雇用しているので、この雇用が瀬戸際でもあるとも言える。

今後どれぐらい掘り続けられるかについては、長期の出炭計画は我々にも示されておらず、その先輸入炭になるかどうかは現時点ではわからない。

問：火発の建設予定地は。

続木：興津のズリ山のすぐ脇。

	<p>問：豪華客船が西港に停泊しているようだが、耐震岸壁に停泊できないか。バスが来ないなどの不満も多いようだ。</p> <p>松橋：耐震岸壁は水深が足りず、下が岩盤のため、これ以上深くするのは難しい。客船の中でも大きな船は西港に停泊となる。昨年は喫水調整ができず西港に回ったケースや、強風のため沖合に停泊したケースもあった。少しでも多くのクルーズ船に来てもらい、喜んでもらいたい。</p>
	<p>問：来年着工の図書館の件だが、市が負担するお金はどの程度になるのか。</p> <p>梅津：新図書館建設に関しては昨年議論した。市からは民間ビルの3階から7階までの家賃として、年間数千万円を30年間にわたって払うことになる。現在、実施設計段階なので、これから具体的な金額が出てくる。</p> <p>問：それは市の負担か。</p> <p>梅津：家賃と図書館に直通するエレベーターも市の負担になる。また、補修の際、経費をどうするかはこれからの問題である。</p> <p>問：相当な負担だと思うが。</p> <p>梅津：独自に建てると地代がかかり、同じぐらいの負担になる。一時に大きな負担をしないで平準化した金額で払えるというメリットもあり、駐車場のことも必要な台数は確保されるなどということを確認したが、具体的なことはこれからになる。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：議員が視察に行くとお金がかかるという意見があるが、控え過ぎはいかがかと思う。むしろ旅費を使った成果を市民に還元することが必要ではないか。市民のためならお金を使うことも大いに賛成だ。</p> <p>続木：政務活動費が与えられているので、有効に活用していきたい。議員の資質が向上するように頑張りたい。</p>

市への 意見・要望	<p>問：市民主体のまちづくりとして基本条例が施行された。地区連合町内会に送られてきた条例に関する冊子の追加を市に求めたところ、余分はなく増刷の予定もないという。みんなで参加しましょうと言っておきながらチラシが「ない」というのはいかがなものか。</p> <p>これを市のホームページで探すとなると1回や2回のクリックでは届かない。議員としてというより、町内会に関わっている皆さんとしてはどう思うか。</p> <p>続木：熱心に町内会活動されていて素晴らしいと感じた。ご指摘の点のご意見があつて当たり前だ。もっと知らせる工夫をするように議会の中で伝えたい。</p>
	<p>問：定員適正化計画策定に関して、第3セクターとは何か。</p> <p>また民間委託についても、ごみ収集くらいしか知らない。どういうものを委託しているということを知らないと議論ができないので、市民にもっと教えて欲しい。</p> <p>続木：第3セクターは、市が経営に関わった法人のことで、うまく行かなかつたため廃止して、こうした事業を民間に委託したものが指定管理者である。</p> <p>これまでは大きな建物の管理を市が直接やっていたが、民間でできる仕事はしっかりやってくれる民間に任せるようになった。効率の良いものは民間に委託しており、図書館も指定管理者として専門の会社に委託し、開館時間など民間の知恵を使って、多くの市民に活用いただけるよう努めている。</p> <p>問：どのような業務が委託されているかということは、何を見たら、わかるのか。</p> <p>梅津：身近なのは地区会館、コミセン、図書館などが指定管理者制度になっている。民生福祉常任委員会では、コミセンの指定管理者更新にあたり募集したところ、応募がなく、単価を上げて再公募して応募があつたと聞いている。</p> <p>問：もう一度聞くが、何を見たらわかるのか。</p>

	<p>梅津：議会報告会なので、議会は何を見て判断したかということ を報告したが、市民の皆さんに明示されていないと分かった。 畑中：委託事業の情報が市民に届いていない声があった旨を市に 伝え、ホームページなどで対応できないか要請する。</p>
	<p>問：市立病院は駐車場が狭く、博物館の方に行って停めている状 況である。駐車場を増やしてほしい。 梅津：市に伝え、委員会の中でその報告を求める。</p>
	<p>問：釧路には産婦人科が市立病院と日赤病院にしかなく、根室管 内にも産科はない。いつ行っても対応できるように産婦人科を 大きくしてほしい。 梅津：周産期医療に対する機能も市立病院の増改築に当たっては 議論になるところである。平成 22 年と平成 25 年を比較すると 病院別の新生児数は日赤病院が 1,200 人から 900 人になり、市 立病院が 700 人から 900 人になったが、医師は日赤病院より少 ない現状もある。意見があったことは委員会の中で伝える。</p>